

## 6. 分科会及び分科会報告（3つのグループに分かれての意見交換及び情報提供）

分科会では参加者を3つのグループに分け、それぞれ意見交換及び情報提供を行なった。

### （1）分科会A：ファシリテーターについて（役割、人材育成、課題）

#### 《分科会の内容》

分科会Aでは、支援センターでファシリテーターとして活動している方が集まり、グループ討議が行なわれ、その後、2つのグループに分かれて、ファシリテーター役と被害者役を設定し、模擬自助グループ（ロールプレイ）が行なわれた。ロールプレイの中では、実際の自助グループの会でファシリテーターが直面するさまざまな場面を体験し、その対応について意見や助言が行なわれた。最後に、自助グループにおけるファシリテーターの対応や役割はどうあるべきかについて以下の質問が示され、参加者の間で助言や確認が行なわれた。質問と回答については、以下の通りである。

#### 質問1：自助グループの会冒頭で、約束事等を読み上げる時はどうすればよいか

回答：自助グループの会を始める時には、ファシリテーター自身が約束事や目的を読む、もしくは参加者全員で読むように、ファシリテーターが促すといった対応をすればよいのではないだろうか。

#### 質問2：参加者が他のメンバーに意見を求めた時はどうすればよいか

回答：参加者の1人が「みなさんどうですか」などと、他の参加者に質問を投げかけ、他のメンバーが発言できなくなり、場が静まり返る時がある。そのような時は「こういうご意見が出ましたが、それも含めてご自分の様子を話していただけませんか」というように投げかけると、話しやすくなるのではないだろうか。

#### 質問3：配付物で参加者が動揺してしまった時はどうすればよいか

回答：ピンクの紙の配付物が、家族が亡くなった時の季節を思い出させて、悲しさを抑えられないといったことがあった。そのような場合には、その配付物をすぐに回収するようにしたらどうだろうか。

#### 質問4：参加者の間で、意見が対立した時はどうすればよいか

回答：「二つの意見がありますが、いかがですか」と、ファシリテーターが参加者に直接問いかけたらどうだろうか。

#### 質問5：ファシリテーターの役割は、どうあるべきか

回答：自助グループの会の主役は参加者である。ファシリテーターは、自分が主役にならないように、話をまとめたりするよりも、参加者から自然に話が出てくるのを待つという姿勢が重要ではないか。参加者同士で意見が対立した場合でも、参加者同士で解決ができるように働きかけることが必要である。その際は、意見には違いが

あり、いろいろな考え方があってよいのではないかといったような話し方をすればよいのではないだろうか。相手を気遣う話し方、落ち着いた話し方、参加者の心に寄り添う気持ちを持ちながら、ファシリテーターとして経験を積み重ねることが、非常に重要であると感じた。

## (2) 分科会 B：自助グループ運営の課題

### 《分科会の内容》

分科会 B では、支援センターで自助グループの支援を行なっている方が集まり、グループ討議を行ない、支援センターが自助グループの支援活動を行なうにあたって、課題と感じていることについて話し合った。参加者からは、日々の活動の中で感じている課題について質問が示され、参加者の間で質問や確認が行なわれた。質問と回答については、以下の通りである。

**質問 1：参加者が少ない、もしくは固定化されるのだが、どうすればよいか**

**回 答：**

- ・人数が多い、少ないは関係ない。支援センターとして重要なことは、受け入れ態勢ができていくかどうかである。参加者の要望に合わせた日程で開催するなど、工夫が必要である。
- ・「自助グループの会を開いている」だけでなく、それ以外での参加者とのつながりが重要である。便りを出す際に、一筆書き添える、前回参加しなかった人には前回の報告を書き添えるなど、信頼関係を築き、参加しやすい体制を整える努力が必要である。

**質問 2：自助グループの会で雑談が多いのだが、どうすればよいか**

**回 答：**

- ・雑談の中に被害者の本心が聴けることもある。雑談に感じることで「どうしても話したいことがあるのかもしれない」という気持ちで聴くことも重要である。

**質問 3：講師としてお話をしていただく時は、どうすればよいか**

**回 答：**

- ・まず、本人の心情をよく理解し、配慮することが大切である。
- ・被害者から見て「突然講師をお願いされた」といった状況にならないよう、平日頃から被害者遺族に対するフォローをしておくなどの配慮が必要である。
- ・講師をお願いした後は、適切にフォローすることが重要である。

#### 質問4：ファシリテーターとして重要なこととは何か

回答：

- ・被害者に寄り添い続けること。長く被害者と関わり、積み重ねていくことが重要である。
- ・連絡方法を取ってみても、手紙、電話、メール等さまざまであるが、被害者その人の立場を考えた方法を取っているのか、そういった細やかな配慮が必要である。

### (3) 分科会C：自助グループの定義と意義

#### 〈分科会の内容〉

分科会Cでは、被害当事者が運営する団体の方が集まり、自己紹介、活動内容の説明、活動の中で感じている課題等について話し合った。その後、より充実した被害者支援のために、被害当事者団体ができることについて話し合った。

#### ① 活動の中で感じている課題

- ・社会の中での被害者に対する理解を、どのように広めていけばよいのか。
- ・被害当事者団体は、どのような形で支援センターと関わっていけばよいのか。また、被害者が複数県にまたがっている団体の場合、どの県の支援センターと関わっていけばよいのか、わからない。
- ・被害当事者団体は、被害者自らが活動しているため、団体の運営をどのように行なっていけばよいか、課題を感じている。
- ・被害当事者が被害者支援を行なっている現状があるが、当事者団体が被害者支援の受け皿になるには、限界がある。被害当事者団体にも、学びの場やスキルアップできる場、また他の支援機関と情報交換ができる場が必要であると思う。

#### ② より充実した被害者支援のために、被害当事者団体ができること

- ・被害当事者団体は、当事者だからこそわかることがたくさんある。当事者と支援センターが意見交換できるような場を、支援センターに提供していただければと思う。そのような活動を重ねていくことで、被害当事者団体も支援センターと連携することができ、共に動き、よりよい支援活動へと発展していくのではないだろうか。
- ・支援センターが開催している研修等に、被害当事者団体も参加させていただき、勉強できればよいのではないか。

## 7. 総括

最後に、堀河昌子氏、大久保恵美子氏から、今年度の自助グループ運営・連絡会議における総括が行なわれた。

### (1) 堀河昌子氏

まず、ファシリテーターの分科会について、自助グループのファシリテーターの役割とは、船が港に入ってくる時に、船が着くべき所に着くように、的確に案内するかのごとく、参加者が問題解決できる手助けをすることではないかと感じた。

次に、課題について話し合った分科会については、指摘された課題はすぐに解決できるものではないが、できることから始めてみる重要性を感じた。例えば「参加者が少ない」という課題については、支援センターがこまめに連絡を取る、来てくれた参加者にはしっかりと対応する、ひとりひとりに「支援センターは、あなたを一人にしない。いつも憶えている」というメッセージを伝えるなど、地道な努力が必要であると感じた。

被害当事者団体については、支援センターが、その団体が抱えている現状を正しく知り、一緒になって支援活動を展開していくことの大切さを感じた。被害者支援の充実のために、共に歩んでいかななくてはならない。

今年度の会議全体としては、被害者支援というものは、被害者たちの意見や要望に耳を傾け、それに教えられながら進めていくべきなのだという認識を新たにした。支援センターや被害当事者団体が、問題解決のために、行政、司法、いろいろなものを駆使しながら、一緒に考え、歩んでいけたらと思う。

### (2) 大久保恵美子氏

法律等ができ、以前よりは被害者の権利が守られるようになってきたとは言っても、被害者の根本的な苦しみは依然としてあり、また回復への道のは困難であるということを感じた。途中で登るのを止められてしまった山に代わる新しい山を、被害者自身が見つけ、再び登り始めるためには、やはり「これからの子供たち、孫たちが、同じような被害に遭わない安心で安全な社会を造る」ということしかないのだと思う。被害者ひとりで乗り越えていくことは難しい。支援センターと被害当事者が両輪となって、地域社会や国に向けて、大きな一歩を踏み出してほしいと願っている。

## VI. 自助グループ運営・連絡会議のまとめと今後の方向性

### 1. まとめ

自助グループ運営・連絡会議の各プログラムについて、主要な結果及び課題についてまとめている。

#### 〔1日目〕

##### (1) 自己紹介について

昨年度は講義の時間が長く、内容、時間配分等、検討を希望する意見や参加者同士の交流の時間についての希望もあったことから、今年度は自己紹介の時間を確保し、参加者同士の紹介の機会を設けた。

##### (2) 交通安全対策の現状等の説明について

「交通安全対策の現状等」については、交通安全対策という交通事故被害者等の支援に携わる者にとって必要な情報であり、最新の情報を効果的に習得できる機会となった。

##### (3) 事件・事故被害者への精神的支援について

「事件・事故被害者への精神的支援」については、被害者が事故後に抱える精神的な問題や回復への道のり、また支援者としての対応についての理解を深めることができた。

##### (4) 被害者自助グループに参加する意義について

3名のご遺族から、「自助グループに参加する意義と、被害者の回復のために自助グループはどうあるべきか」についてお話いただいた。ご遺族からは、大切な家族を失った悲しみや苦しさから、自分らしさを取り戻し、立ち直っていく中で、自助グループがいかに役に立ったかという体験談が語られた。また、被害者の回復のためには、自助グループだけでなく、支援センターや自治体、また被害当事者団体などの各関係機関が連携しながら支援を行なっていくことが重要であるとの指摘が示された。

後半は、自助グループ支援者から、自助グループをさらに充実させていく方法や、自助グループ参加者の精神的ケアについて質疑応答が行なわれ、理解を深めることができた。

#### 〔2日目〕

##### (1) 被害者支援の歴史とその意義、今後の課題についての講義

「被害者支援の歴史とその意義～交通事故被害者の視点から～」について、国内における被害者支援に関するこれまでの歴史を概説するとともに、被害者支援をさらに充実させていく必要性や意義について語られた。

## **(2) 分科会・総括**

昨年度に引き続き、本年度においても分科会形式を採用し、各テーマに分かれて模擬自助グループや意見交換等を実施した。テーマごとに分かれて実施したことから、議論の焦点が明確となり、参加者からは効率的に学習できるなど非常に好評であった。また、参加者に対して事前にアンケートを実施し、課題を抽出したことにより、当日の議論が効率的に実施される効果もあった。

## **2. 今後の方向性**

今後の方向性についての主な検討内容は、以下のとおりである。

### **(1) 参加者の対象について**

本年度参加者については、交通事故被害者等への支援に携わっている支援者を対象とした。交通事故被害者等の支援に特化することで、日々の活動の中で抱える課題や悩みについて、支援者が共感、共有することができ、より焦点を絞った有意義な意見交換、情報交換を行なうことができた。

また、昨年度に引き続き、本年度も被害当事者団体が参加した。2年目の参加の団体も多く、参加者からは、講義への理解がより深まり、参加者同士の情報交換についても、より活発に行なうことができたという声が聞かれていた。来年度に向けても、被害当事者団体を参加の対象とする試みは、継続することが望ましいと思われる。また、交通事故の被害者の自助グループを行なっている団体については、今年度参加した団体以外にも全国にある可能性があるため、来年度はそのような団体を発掘することも検討する必要があると考える。

### **(2) 分科会について**

分科会については、参加者からは非常に好評であり、今後も分科会形式を進めていくことが期待される。今年度は事前にレポートを提出し、課題や問題点を明確にしていたため、分科会当日は効果的に意見交換することができ、参加者同士で助言し合うなど、充実したプログラムとなった。過去の会議においては、参加者のレベル差という課題がみられた時もあったが、参加対象者の活動内容や参加の動機を揃えたこと、また分科会形式が定着してきたこと等から、その課題は解消されつつあるように思われる。しかしながら、さらなる充実に向けて、参加者の対象や習熟度について検討することが望まれる。

### **(3) 来年度に向けて**

本年度の自助グループ運営・連絡会議は、支援センター及び被害当事者団体が抱える課題や、交通事故被害者等の支援の問題点について、より具体的に示された会議となった。その中で見えてきたことは、被害者支援センターと被害当事者団体のさらなる交流や連携

の必要性である。被害当事者団体からは、支援活動のノウハウやスキルアップの必要性、また支援機関についての情報の足りなさを訴える声が多く聞かれたが、その意味で被害者支援センターの役割は大きいと考える。また、被害者支援センターからは、日々の支援活動を行なう中で、被害当事者団体の生の声を聴けたことは意義があると指摘する声もあった。これからの被害者支援を考える上で、両者の協力や連携を一層推進していく必要がある。